

証券コード6859

エスペック株式会社

**2021年度(2022年3月期)
決算説明**

2022年5月25日

代表取締役 執行役員社長 荒田 知

決算総括

エレクトロニクス関連を中心に好調に推移し、受注高は過去最高を更新
売上高は電子部品不足により伸びず、利益面も調達コスト・販管費により減少

	前期比	予想比(2022年2月修正)
■受注高	○ 装置事業(主に環境試験器)が大幅に増加	○ 装置事業(主に環境試験器)が引き続き好調
■売上高	○ 装置事業(主に環境試験器)とサービス事業が増加	○ 装置事業がやや下回るが予想どおり
■営業利益	× 調達コストの上昇と受注拡大に伴う販管費の増加により減少	× 原価率の悪化と販管費の増加により下回る
■経常利益 当期純利益※	× 営業利益の減少により減少	○ 投資有価証券売却益などにより予想どおり

※親会社株主に帰属する当期純利益

■ 1株当たり配当金は、期初計画のとおり、中間18円、期末42円、年間60円を予定

損益の状況

(百万円)

	2020年度 実績	2021年度 予想(22年2月)	2021年度 実績	前期比	予想比
受注高	37,580	50,800	51,303	+36.5%	+1.0%
売上高	38,668	42,200	41,852	+8.2%	△0.8%
売上原価 (原価率)	25,255 (65.3%)	27,900 (66.1%)	27,849 (66.5%)	+10.3% 1.2pt悪化	△0.2% 0.4pt悪化
売上総利益	13,412	14,300	14,003	+4.4%	△2.1%
販管費	10,839	11,900	12,034	+11.0%	+1.1%
営業利益	2,572	2,400	1,968	△23.5%	△18.0%
経常利益	2,840	2,600	2,322	△18.2%	△10.7%
親会社株主に帰属 する当期純利益	1,961	1,900	1,905	△2.8%	+0.3%

2021年7月よりエスペクサーマルテックシステム株式会社を連結の範囲に含めています。

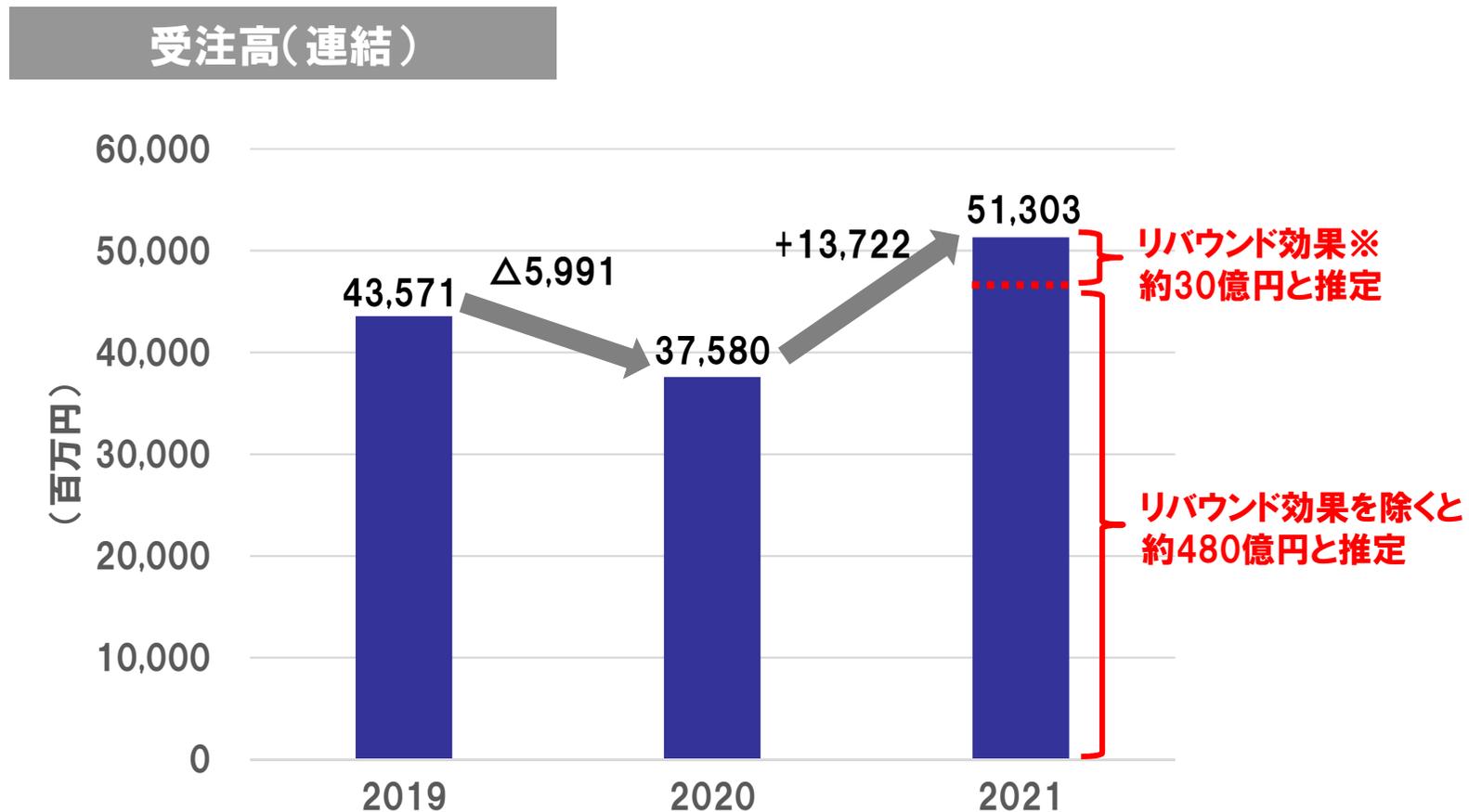
セグメント別の損益の状況

		(百万円)				
セグメント		2020年度 実績	2021年度 予想(22年2月)	2021年度 実績	前期比	予想比
装置事業	受注高	30,755	43,450	43,535	+41.6%	+0.2%
	売上高	30,669	35,000	34,518	+12.6%	△1.4%
	営業利益	2,062	1,920	1,370	△33.5%	△28.6%
サービス事業	受注高	6,153	6,450	6,771	+10.0%	+5.0%
	売上高	6,063	6,400	6,407	+5.7%	+0.1%
	営業利益	446	550	618	+38.5%	+12.4%
その他事業	受注高	976	1,200	1,265	+29.6%	+5.4%
	売上高	2,241	1,100	1,188	△47.0%	+8.0%
	営業利益	60	△70	△23	-	-
連結消去	受注高	△304	△300	△269	-	-
	売上高	△305	△300	△261	-	-
	営業利益	3	0	2	-	-
計	受注高	37,580	50,800	51,303	+36.5%	+1.0%
	売上高	38,668	42,200	41,852	+8.2%	△0.8%
	営業利益	2,572	2,400	1,968	△23.5%	△18.0%

2021年7月よりエスペックサーマルテックシステム株式会社を連結の範囲に含めています。

<考察> 2021年度実績・受注高について

■受注高は2020年度のリバウンド効果もあり過去最高額



※リバウンド効果

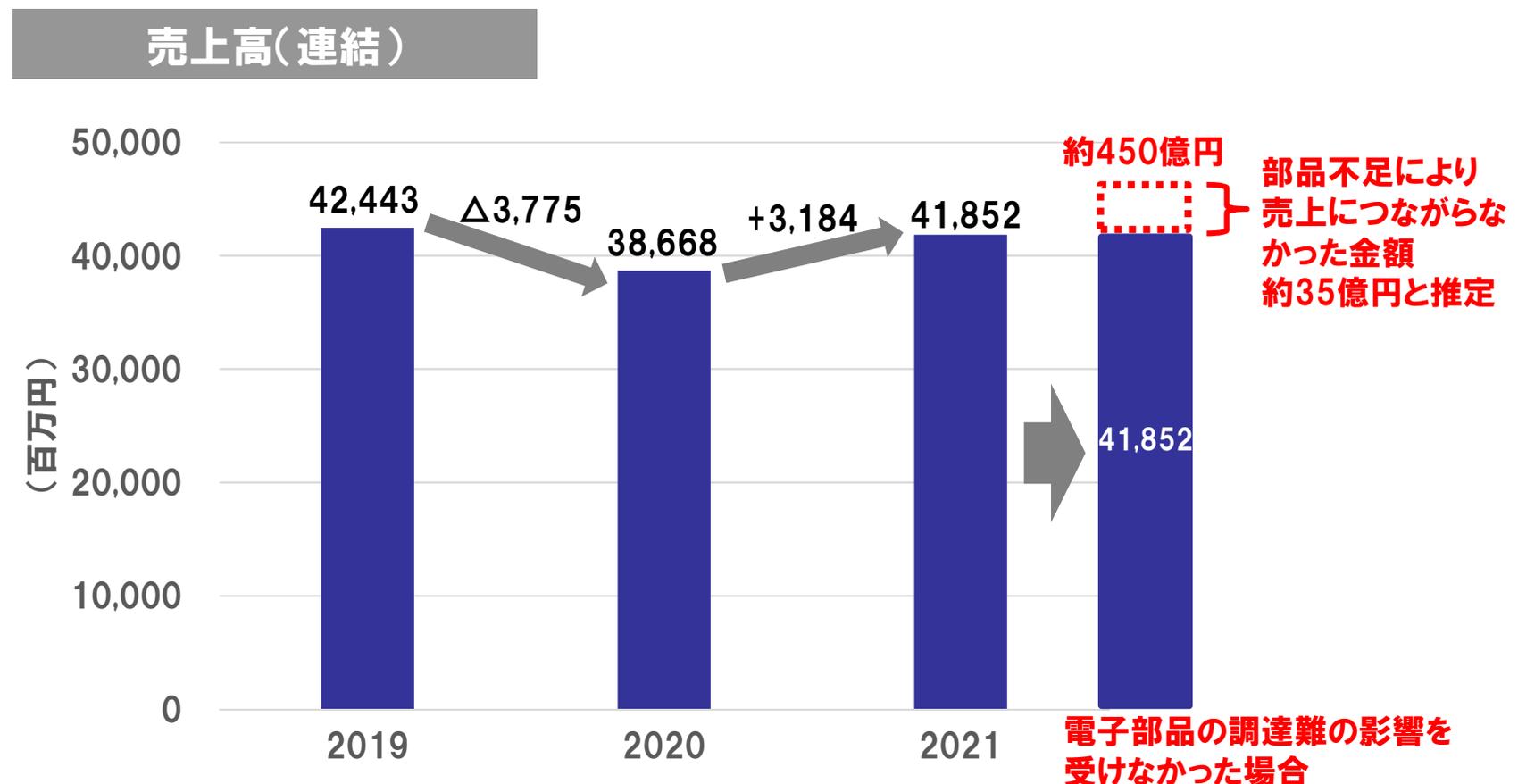
2020年度に計画された投資が2021年度に実施されたと想定する金額

<考察> 2021年度実績・売上高について

■電子部品の調達難による生産リードタイムの長期化

世界的な半導体、電子部品不足により、生産完了ができず

調達力強化、代替品選定、設計変更などを行ったが、その努力を超える部品不足となった



2021年度実績・営業利益について

■営業利益額が増収にも関わらず大幅低下した理由

調達部材価格高騰

電子部品、部材の高騰、代替品への設計変更費用

生産効率の低下

生産リードタイム短縮に向けた生産工程変更

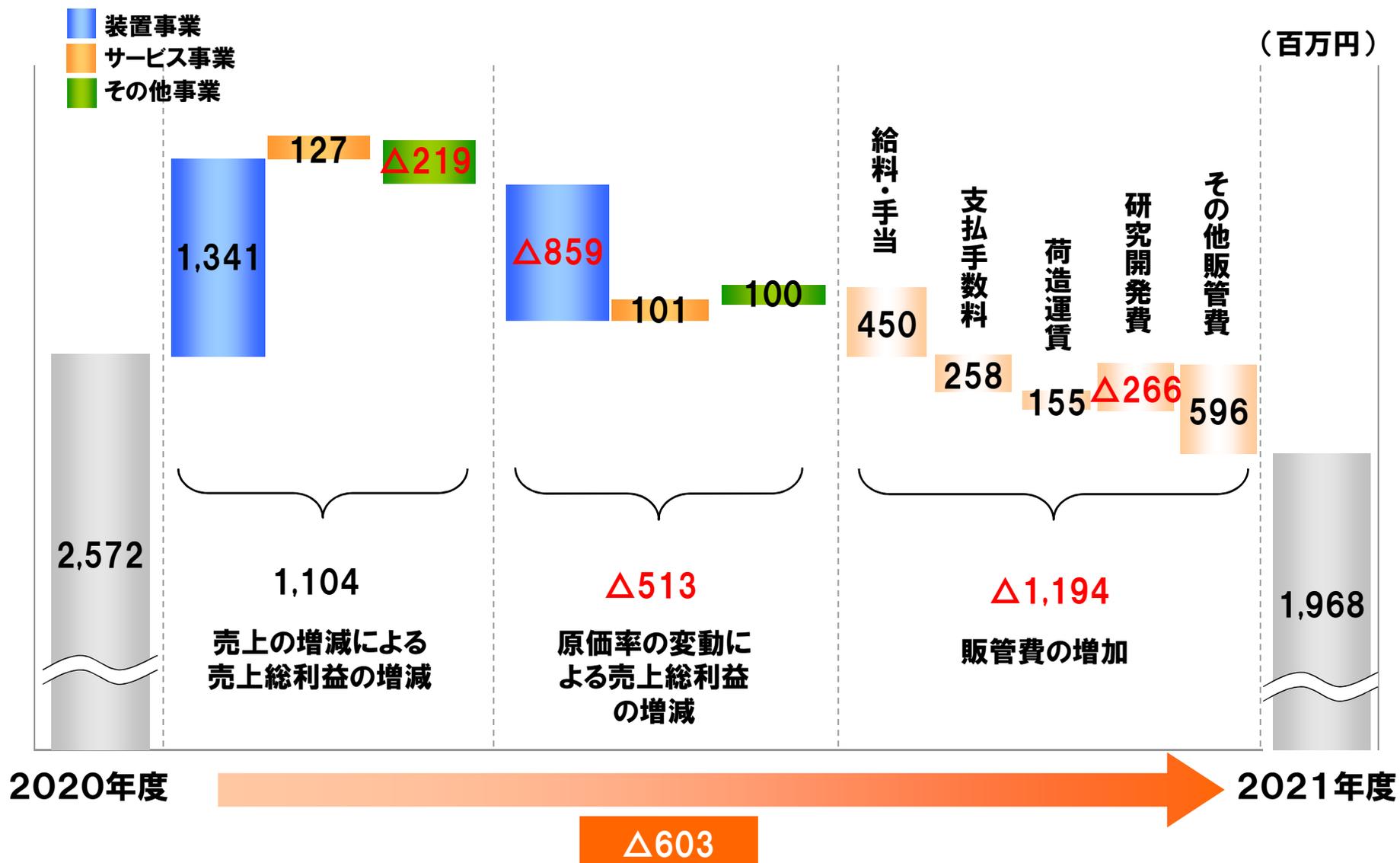
販管費の増加

活況な受注による見積や活動費の増加
物流費の高騰

■2月公表値から営業利益額が大幅低下した理由

- ・中国事業において物流の遅れにより連結ベースの売上が計上できず
- ・北米事業において想定以上に材料費が高騰

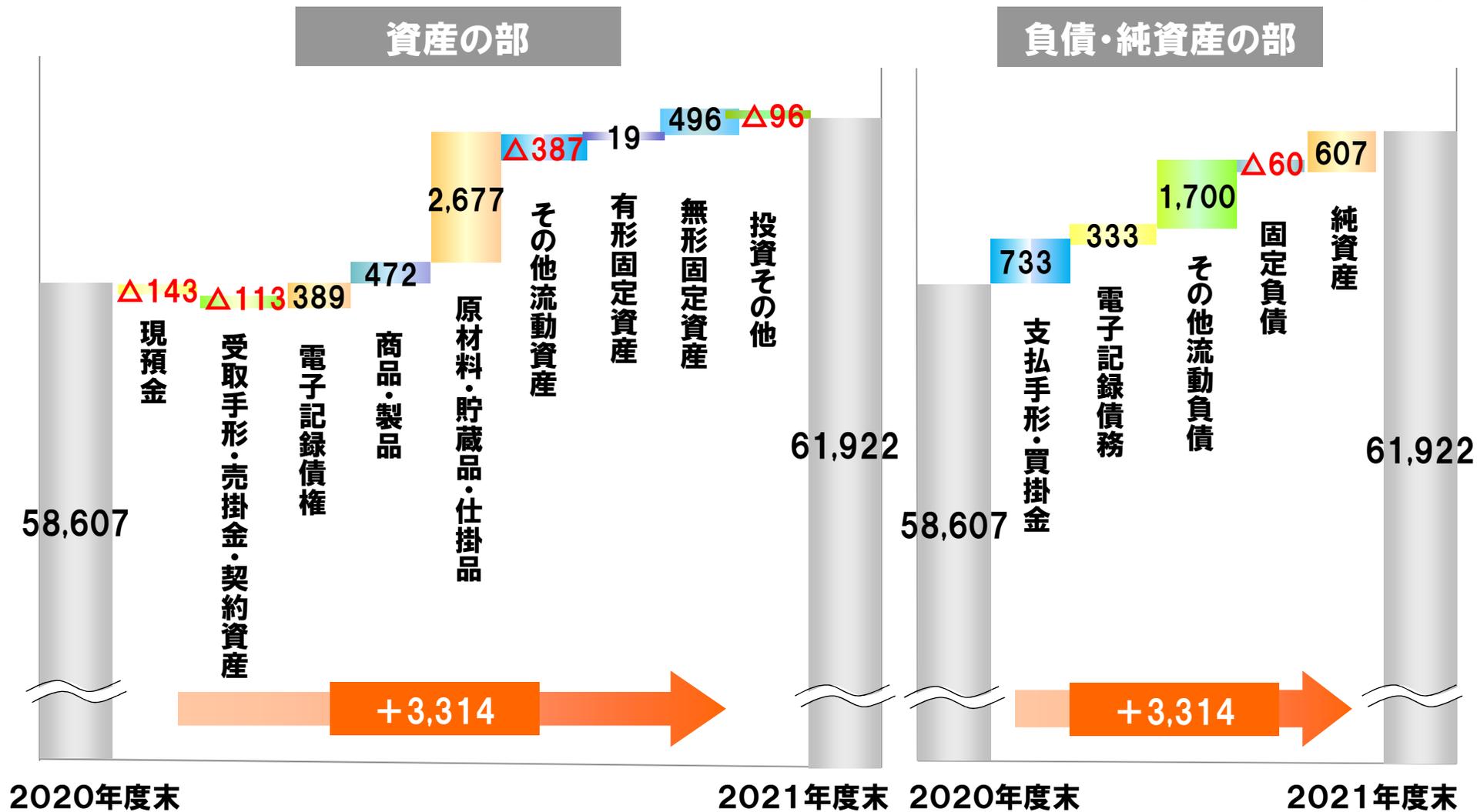
営業利益の増減要因分析



※合計値は全体の売上総利益率を用いて算出しています。

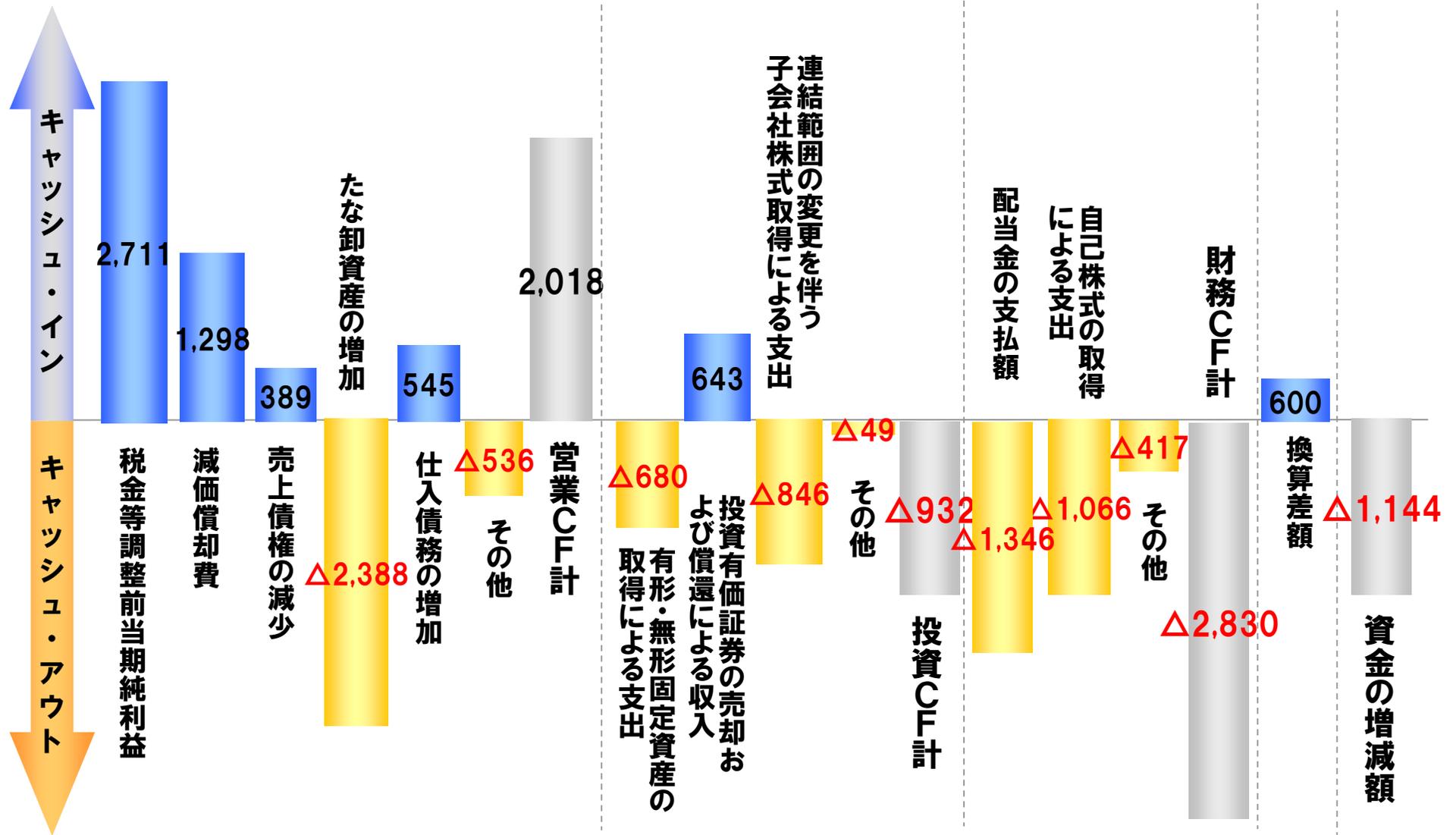
資産・負債の状況

(百万円)



キャッシュフローの状況

(百万円)



装置事業セグメント

(百万円)

	2020年度 実績	2021年度 予想(22年2月)	2021年度 実績	前期比	予想比
受注高	30,755	43,450	43,535	+41.6%	+0.2%
売上高	30,669	35,000	34,518	+12.6%	△1.4%
営業利益 [利益率(%)]	2,062 [6.7%]	1,920 [5.5%]	1,370 [4.0%]	△33.5%	△28.6%

環境試験器

- 国内では、エレクトロニクスを中心に汎用性の高い標準製品、カスタム製品ともに好調に推移
受注高は前期比で増加、売上高は前期並み
- 海外では、エレクトロニクス・自動車を中心に好調に推移し、受注高・売上高ともに前期比で増加
特に中国、北米、欧州が増加

エネルギーデバイス装置

- 自動車関連の投資の回復により二次電池評価装置の受注を獲得し、
受注高・売上高ともに前期比で増加

半導体関連装置

- メモリ、自動車関連の投資が継続し、受注高は前期比で増加、売上高は減少

サービス事業セグメント

(百万円)

	2020年度 実績	2021年度 予想(22年2月)	2021年度 実績	前期比	予想比
受注高	6,153	6,450	6,771	+10.0%	+5.0%
売上高	6,063	6,400	6,407	+5.7%	+0.1%
営業利益 [利益率(%)]	446 [7.4%]	550 [8.6%]	618 [9.7%]	+38.5%	+12.4%

アフターサービス・エンジニアリング

- 保守契約など予防保全サービスが堅調に推移し、受注高・売上高ともに前期比で増加

受託試験・レンタル

- 受託試験が堅調に推移し、受注高・売上高ともに前期比で増加

その他事業セグメント

(百万円)

	2020年度 実績	2021年度 予想(22年2月)	2021年度 実績	前期比	予想比
受注高	976	1,200	1,265	+29.6%	+5.4%
売上高	2,241	1,100	1,188	△47.0%	+8.0%
営業利益 [利益率(%)]	60 [2.7%]	△70 [△6.4%]	△23 [△2.0%]	-	-

環境保全・植物育成装置

- 受注高は森づくりや水辺づくり、植物工場が増加
売上高は前期植物工場の大型案件があったため減少

市場別売上構成比

単体(装置事業)

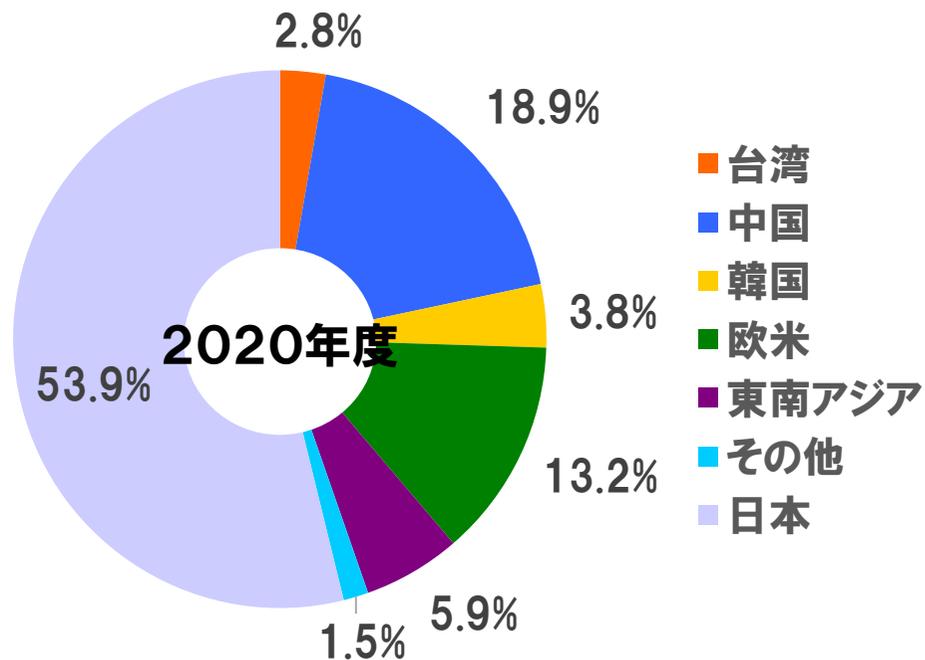
- 電子部品・電子機器市場
- 自動車市場
- 半導体市場
- 研究機関
- その他市場



地域別売上構成比

2020年度

海外売上高比率: 46.1%

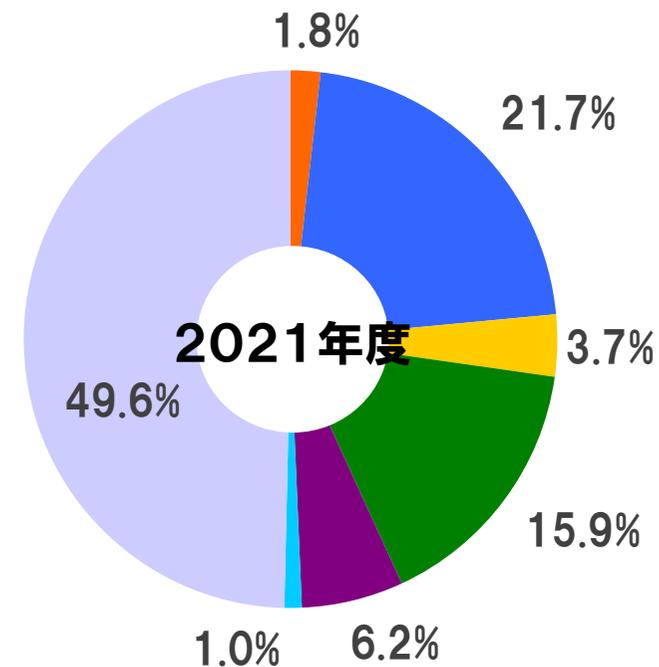


計 38,668百万円

(海外売上高: 17,845百万円)

2021年度

海外売上高比率: 50.4%



計 41,852百万円

(海外売上高: 21,080百万円)

2022年度計画について

**経営環境は不透明で予測しにくい状況が継続しますが、
製品納期の正常化に全力で取り組み、
強い受注の収益化を果たします**

2022年度 業績予想

(百万円)

	2021年度	2022年度			
	通期実績	上期予想	下期予想	通期予想	前期比
受注高	51,303	24,000	26,000	50,000	△2.5%
売上高	41,852	23,500	26,500	50,000	+19.5%
売上総利益 [利益率(%)]	14,003 [33.5%]	8,350 [35.5%]	9,650 [36.4%]	18,000 [36.0%]	+28.5%
販管費 [販管費率(%)]	12,034 [28.8%]	6,400 [27.2%]	6,600 [24.9%]	13,000 [26.0%]	+8.0%
営業利益 [利益率(%)]	1,968 [4.7%]	1,950 [8.3%]	3,050 [11.5%]	5,000 [10.0%]	+153.9%
経常利益 [利益率(%)]	2,322 [5.5%]	2,000 [8.5%]	3,100 [11.7%]	5,100 [10.2%]	+119.6%
親会社株主に帰属する 当期純利益 [利益率(%)]	1,905 [4.6%]	1,300 [5.5%]	2,300 [8.7%]	3,600 [7.2%]	+88.9%
設備投資額	910	1,200	640	1,840	+102.2%
減価償却費	1,253	670	710	1,380	+10.1%
研究開発費	1,035	730	600	1,330	+28.5%
1株当たり当期純利益(円)	84.89	58.11	102.81	160.92	+89.6%

環境認識

- ・IoTや次世代自動車など先端技術分野を中心に引き続き好調に推移すると予想
- ・電子部品不足、中国ロックダウンの長期化を懸念

装置事業	環境試験器	<p>日本 : 電子部品、半導体関連を中心に投資は活況 EV・自動運転関連も回復基調が継続</p> <p>中国 : 半導体、電子部品、EV関連を中心に投資は活況 ロックダウン長期化による影響を懸念</p> <p>ASEAN : 半導体関連を中心に緩やかな回復を見込む</p> <p>北米 : EVや半導体関連を中心に投資は活況</p> <p>欧州 : 自動運転やEV関連を中心に投資は活況</p>
	エナジーデバイス装置	二次電池向けを中心に回復を見込む
	半導体関連装置	IoT向けを中心に投資は継続
サービス事業	アフター・エンジ 受託試験・レンタル	<p>アフター・エンジン : 前期と同水準になると予想</p> <p>受託試験 : 先端技術分野の試験需要が継続</p>
その他事業	環境保全 植物育成装置	環境保全事業および植物工場ともに回復を見込む

セグメント別の業績予想

		2021年度	2022年度			(百万円)
		通期実績	上期予想	下期予想	通期予想	前期比
装置事業	受注高	43,535	20,200	21,700	41,900	△3.8%
	売上高	34,518	20,000	22,100	42,100	+22.0%
	営業利益	1,370	1,850	2,770	4,620	+237.0%
サービス事業	受注高	6,771	3,200	3,400	6,600	△2.5%
	売上高	6,407	3,100	3,400	6,500	+1.4%
	営業利益	618	150	200	350	△43.4%
その他事業	受注高	1,265	750	1,050	1,800	+42.2%
	売上高	1,188	550	1,150	1,700	+43.1%
	営業利益	△23	△50	80	30	-
連結消去	受注高	△269	△150	△150	△300	-
	売上高	△261	△150	△150	△300	-
	営業利益	2	0	0	0	-
計	受注高	51,303	24,000	26,000	50,000	△2.5%
	売上高	41,852	23,500	26,500	50,000	+19.5%
	営業利益	1,968	1,950	3,050	5,000	+153.9%

2022年度の主な取り組み

装置事業

- ・先端技術分野の試験ニーズに応える製品ラインアップの拡充
- ・大型製品の海外市場投入によるカスタム製品のグローバル展開
- ・欧州市場向け製品の投入
- ・グローバルカスタマーを中心とする販売強化

サービス事業

アフターサービス : 新サービス「スーパーサポートプラン」による予防保全サービスの拡大
受託試験 : 先端技術分野向け試験サービスの拡充

新規事業

医薬品コールドチェーン事業や食品機械事業における市場浸透に向けた取り組み強化

2022年度のESGの主な取り組み

■E(環境)

- ・第8次環境中期計画(2022～2025年度)を推進
- ・地球温暖化対策:低GWP冷媒への置き換え
製造など事業活動におけるCO₂排出量削減
- ・生物多様性保全活動:エスペックミツクの事業による貢献
「法人の森」運営による保全活動の推進

■S(社会)

- ・社員(管理職・一般)への学び直し機会の拡大
- ・女性管理職の育成など多様な人材の活躍推進

■G(ガバナンス)

- ・2022年4月1日、社長交代し新体制スタート
- ・2022年6月23日、監査等委員会設置会社へ移行予定
目的:取締役会における審議の充実化、監督機能の強化

2022年度の投資計画

戦略投資	3.4億円
通常投資	15.0億円
設備投資 合計	18.4億円

研究開発費	13.3億円
-------	--------

主な投資内容

- ・生産能力拡充や効率化
- ・受託試験設備の拡充
- ・アフターサービスのシステム刷新

など

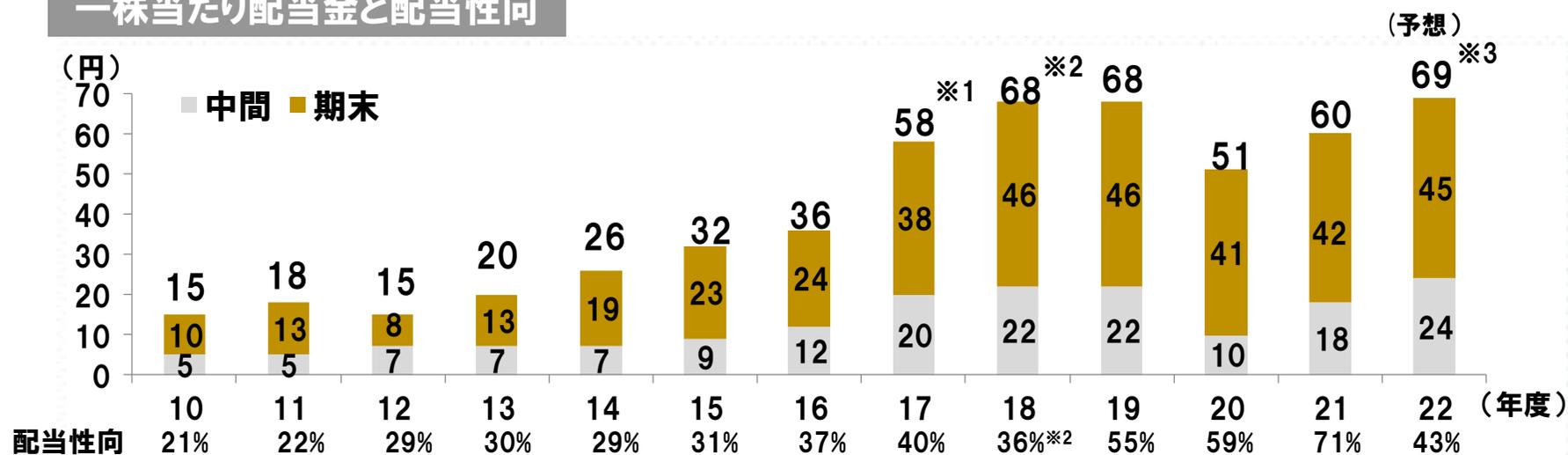
2022年度 配当予想

利益配分に関する基本方針

配当については継続性と連結配当性向を勘案して決定することを基本としていますが、2022年5月13日の取締役会において配当基本方針を以下のとおり改定しました。

- ・配当性向30%に加え、予定必要資金の超過金額の1/3を目途に配当として上乘せする
- ・安定配当として年20円の配当金を利益水準に関わらず維持するが、2期連続で最終赤字の場合は見直しを行う
- ・必要な内部留保の水準を考慮しつつ、自己株式取得を機動的に実施する

一株当たり配当金と配当性向



※1.2017年度は創業70周年記念配当2円(中間1円、期末1円)を含む

※2.2018年度は海外連結会社の決算期が15ヵ月間の変則決算 12ヵ月とした場合の配当性向は39%(参考値)

※3.2022年度は創業75周年記念配当4円(中間2円、期末2円)を含む

配当基本方針

継続性と連結配当性向を勘案して決定することを基本とする

配当性向30%に加え、予定必要資金の超過金額の1/3を目途に上乗せする

また、必要な内部留保の水準を考慮しつつ、自己株式取得を機動的に実施する



※安定配当として年20円の配当金を利益水準に関わらず維持するが、2期連続で最終赤字の場合は見直しを行う

中期経営計画 「プログレッシブ プラン2025」

計画実施期間 2022～2025年度

前中計「プログレッシブ プラン2021」振り返り

基本方針

－戦略投資と着実な「質の向上」による安定継続成長－

- ・成長分野をターゲットとしたグローバル化とカスタム対応力の向上
- ・業績変動の緩和と次代の成長のための新分野事業の開発

- ・2018年度に過去最高業績となり、営業利益目標を達成
- ・2019年度、2020年度は米中摩擦や新型コロナウイルス感染拡大により事業環境が悪化
- ・2020年度後半から受注は回復し、2021年度は過去最高の受注高となったが
部品調達難により収益につながらず

前中計「プログレッシブ プラン2021」 経営目標と実績

(百万円)

	中計2017	中計2021				
	2017年度 実績	2018年度 実績	2019年度 実績	2020年度 実績	2021年度 実績	2021年度 当初目標
売上高	44,069	50,580 12ヵ月47,060	42,443	38,668	41,852	52,000
営業利益	4,602	5,827 12ヵ月5,470	3,742	2,572	1,968	5,200
営業利益率 (%)	10.4%	11.5% 12ヵ月11.6%	8.8%	6.7%	4.7%	10.0%
ROE(%)	8.6%	10.5% 12ヵ月9.9%	6.6%	4.5%	4.2%	8.5%
海外売上高 比率	44.2%	51.0% 12ヵ月47.5%	43.9%	46.1%	50.4%	50%
<参考> 為替レート (USドル)	112円	110円	108円	106円	112円	110円 (想定)

※2018年度は、海外連結子会社の決算対象期間が15ヵ月となる変則決算。12ヵ月の場合の参考値も記載しています。

前中計「プログレッシブ プラン2021」成果と課題

ターゲット市場である先端技術分野において受注・売上を拡大し、デジタル化・脱炭素社会に向かって成長する事業の基盤づくりができた。経営環境が急激に変化するなか対応力強化が課題

中計2021の重点戦略	中計2021の成果	経営課題
装置事業 ・自動車、IoT分野での拡大 ・環境因子技術の拡充 ・新規分野事業の開拓	・IoT分野での受注拡大 ・カスタム製品の収益改善 ・オープンイノベーションの推進 ・M&Aによる液流制御技術獲得 ・ワクチンコールドチェーン向け製品投入	・先端技術分野ニーズの先取り、商品化 ・グローバル化のさらなる推進
サービス事業 ・サービスメニュー開発 ・受託試験事業の拡充	・ITを活用した新サービスの拡充 ・受託試験設備の増強、サービス拡充	・エネルギーデバイス装置、半導体関連装置の販売拡大 ・新規事業の収益化
グローバル ・マーケティング強化 ・ものづくり体制強化	・中国事業の拡大 ・欧州市場の開拓 ・東南アジアの技術サポート体制強化 ・生産能力の拡充(日本・米国)	・安定調達
経営基盤強化・ESG ・環境中計推進、SDGs貢献 ・人材育成、ダイバーシティ ・コーポレートガバナンス強化	・サステナビリティ方針策定、重要課題特定 ・気候変動対策の強化、CDP Bスコア ・教育制度拡充、シニア社員活躍推進 ・CGコードへの対応	・サステナビリティ経営の推進 ・組織の活性化と人材育成 ・グループのガバナンス強化

新中計「プログレッシブ プラン2025」の位置づけ

「ESPEC Vision 2025」の実現に向けて、Stage I ~ IIIの4カ年ごとの中期経営計画を策定・実行
2022年度をスタートとする新中計は最終ステージであり、戦略を着実に遂行しビジョン実現を目指す



新中計「プログレッシブ プラン2025」全体構成

基本方針

個と職場の慣性と惰性を打破し、先端技術の実用化に貢献する

- ・IoT・次世代自動車市場に貢献する商品・サービス提供に向けた積極的な成長投資
- ・ビジネスチャンスと不測の事態に対する変化対応力を高める

中期経営戦略

1. 環境試験事業戦略
 2. グローバル戦略
 3. 新規事業戦略
 4. モノづくり改革とDX戦略
-
5. 組織開発・人材開発戦略
 6. 経営基盤強化戦略
(環境・社会・ガバナンス)

新中計「プログレッシブ プラン2025」 経営目標

	2021年度 実績	2025年度 目標	増加率
売上高	418億円	550億円	+30%
営業利益	19億円	70億円	+260%
営業利益率	4.7%	12.7%	+8pt
ROE	4.2%	10%	+5.8pt

<参考> 為替レート(USドル) 2021年度実績112円 2025年度想定115円

事業セグメント別 経営目標

(百万円)

項目	事業セグメント	2021年度実績	2025年度目標	増加率
売上高	装置事業	34,518	45,900	+30%
	サービス事業	6,407	7,700	+20%
	その他事業	1,188	1,800	+50%
	消去	△261	△400	-
	計	41,852	55,000	+30%
営業利益 [利益率(%)]	装置事業	1,370 [4.0%]	5,950 [13.0%]	+330%
	サービス事業	618 [9.7%]	1,000 [13.0%]	+60%
	その他事業	△23 [△2.0%]	50 [2.8%]	-
	消去	2	0	-
	計	1,968 [4.7%]	7,000 [12.7%]	+260%

重点市場(先端技術分野)



デジタル化・脱炭素化



IoT分野

高速データ通信
携帯端末、基地局

最先端半導体
高速グラフィックデバイスなど

データストレージ
メモリ、サーバー

次世代自動車分野

電動化
バッテリー、パワー半導体、モーター

自動化
カメラ、ミリ波レーダー、LIDAR

コネクテッド化
車載ネット端末、ディスプレイ

環境試験のトータルコーディネーターへ！
装置・サービス・技術で高度化する試験需要を獲得

高度化する試験の拡大

高発熱
急速な温度変化
大型化



1. 環境試験事業戦略 装置事業セグメント

装置事業

「世界の先端技術にとって不可欠な存在！」

- 1 重点先端技術分野（IoT、次世代自動車）の製品ラインアップの拡充
- 2 カスタム製品のグローバルでの競争力強化と新市場開拓
- 3 オープンイノベーションの推進による新環境因子技術の拡充

中期経営目標

（百万円）

	2021年度 実績	2025年度 目標	増加率
売上高	34,518	45,900	+30%
営業利益 [利益率(%)]	1,370 [4.0%]	5,950 [13.0%]	+330%

1. 環境試験事業戦略 サービス事業セグメント

サービス事業

「お客様の面倒くさいに貢献！」

- 1 お客様の悩みを解決するトータルテクニカルサポート業への転換
- 2 先端技術分野向け試験の拡充と試験技術の高度化

中期経営目標

(百万円)

	2021年度 実績	2025年度 目標	増加率
売上高	6,407	7,700	+20%
営業利益 [利益率(%)]	618 [9.7%]	1,000 [13.0%]	+60%

2. グローバル戦略

グローバル事業

「世界の先端技術開発に貢献！」

1 中国、韓国、欧州におけるマーケティングの強化

	2021年度 実績	2025年度 増加率目標
中国	90億円	+50%
韓国	15億円	+100%
欧州	18億円	+50%

3. 新規事業戦略

新規事業

「新たな事業の柱を確立！」

1 新規事業の基盤確立と新たな分野へのチャレンジ

医薬品コールド
チェーン事業

食品機械事業

サーマルソリュー
ション事業

生物多様性
ビジネス

4. モノづくり改革とDX戦略

モノづくり改革

「新ニーズへの一番乗りを実現するモノづくり！」

- 1 デジタル技術による先進的カスタマイズモノづくり

DX戦略

「ビジネスモデルの変革！」

- 1 データ活用による顧客接点強化と社内情報蓄積・共有
- 2 デジタル技術によるビジネススタイルの刷新

5. 組織開発・人材開発戦略、6. 経営基盤強化戦略

組織開発・人材開発

「クリエイティビティとバイタリティにあふれる成長企業へ！」

- 1 企業理念の浸透と自律的な社員が育つ組織づくり
- 2 リーダーシップ改革と学び直しの推進
- 3 DX、グローバル人材育成と多様な社員の活躍推進

経営基盤強化

「持続的成長を支える基盤づくり！」

- 1 安定調達と品質システムのレベルアップ
- 2 持続的で健全な成長を支えるコーポレートガバナンス
- 3 第8次環境中期計画の達成

財務戦略と株主還元

- 収益性と効率性の向上をはかり、持続的成長に向けた成長投資（M&A含む）を積極的に行う
- 財務基盤の安定と資本効率の向上を目指す 目標:ROE10%
- 必要な内部留保の水準を考慮しつつ、自己株式取得を機動的に実施する

<配当基本方針>

配当性向30%に加え、予定必要資金の超過金額の1/3を目途に上乗せする



※安定配当として年20円の配当金を利益水準に関わらず維持するが、2期連続で最終赤字の場合は見直しを行う

第8次環境中期計画(2022～2025年度)

基本方針

グリーンテクノロジーを開発されているお客さまへの事業を通じた貢献

地球温暖化対策および生物多様性保全活動を中心に強化

<2025年度 目標>

- SCOPE3 CO₂排出量を2019年度比10%削減
- SCOPE1+2 CO₂排出量を2019年度比55%削減
- エスプレックミック植樹本数50,000本・CO₂固定貢献95t（累計）
- 兵庫県三田市「法人の森」運営による生物多様性保全活動

投資計画

	2018~2021年度 実績	2022~2025年度 目標	増加率
戦略投資	43.5億円	60~65億円	+40~50%
通常投資	18億円	30~35億円	+70~90%
合計	61.5億円	90~100億円	+50~60%
研究開発費	48億円	60億円	+25%
人材投資	2.8億円	4.8億円	+70%

主な投資内容

生産能力拡充や効率化、受託試験設備の拡充、
新サービス拡充、M&Aなど

**この資料には、当社の現在の計画や業績見通しなどが含まれております。
それら将来の計画や予想数値などは、現在入手可能な情報をもとに、
当社が計画・予測したものであります。
実際の業績などは、今後の様々な条件・要素によりこの計画などとは
異なる場合があります、この資料はその実現を確約したり、保証するものでは
ございません。**

【お問い合わせ先】

エスペック株式会社

〒530-8550 大阪市北区天神橋3-5-6

TEL 06-6358-4744 FAX 06-6358-4795

e-mail ir-div@espec.jp

サステナビリティ推進部 部長 中川

IR・広報グループ 大川・姜

■ **会社紹介・事業概要**

■ **サステナビリティの取り組み**

2022年5月25日

会社概要

環境試験器の世界トップメーカー

会社名	エスペック 株式会社
本社住所	大阪市 北区 天神橋 3-5-6
代表者	代表取締役 執行役員社長 荒田 知（あらた さとし）
創業年月日	1947年(昭和22年)7月25日
設立年月日	1954年(昭和29年)1月13日
資本金	6,895百万円
発行済株式総数	23,781,394株
従業員数	1,628名(連結)
事業内容	環境試験器、エナジーデバイス装置、半導体関連装置、 植物工場の製造・販売、アフターサービス、受託試験など



本社

環境試験器シェア

世界30%以上 国内60%以上

(2022年4月1日現在)

グローバルネットワーク

連結子会社 13社
(海外9社、国内4社)

海外ネットワーク
50カ所(国・地域)
45社

国内営業・サービス拠点
16カ所
国内代理店 46社

欧州

- ESPEC EUROPE GmbH
- △ ESPEC IKLIM KABINLERI SATIS VE MUHENDISLIK LIMITED SIRKETI

日本

- エスペック(株)
- エスペックテストシステム(株)
- エスペックアシスト(株)
- エスペックミック(株)
- エスペックサーマルテックシステム(株)
- △ (株)ミックファーム大口

アジア

- 上海愛斯佩克環境設備有限公司
- 愛斯佩克環境儀器(上海)有限公司
- 愛斯佩克試験儀器(広東)有限公司
- 愛斯佩克測試科技(上海)有限公司
- ESPEC(CHINA)LIMITED
- ESPEC KOREA CORP.
- ESPEC ENGINEERING (THAILAND) CO., LTD.
- △ ESPEC ENGINEERING VIETNAM CO., LTD.

米国

- ESPEC NORTH AMERICA, INC.

●印…連結子会社
△印…非連結子会社

事業概要(各事業の市場/用途)

		主要製品	市場	用途	売上構成比 2021年度	
装置事業	環境試験器	<ul style="list-style-type: none"> ・恒温恒湿器 ・冷熱衝撃装置 ・小型環境試験器 ・ハストチャンバー 	<ul style="list-style-type: none"> ・恒温恒湿室 ・複合環境試験機 ・HALT試験装置 ・FPD装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子部品、電子機器 ・自動車 ・半導体 ・医薬品、食品等 ・LCD、有機EL 	<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 ・生産、検査 	<p>82%</p>
	エネルギーデバイス装置	<ul style="list-style-type: none"> ・二次電池充放電サイクル評価装置 ・二次電池安全性評価装置 ・燃料電池評価装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・次世代自動車 ・二次電池 ・燃料電池 	<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 ・安全性評価 ・生産 		
	半導体関連装置	<ul style="list-style-type: none"> ・バーンイン装置 ・半導体評価装置 	<ul style="list-style-type: none"> ・計測システム 	<ul style="list-style-type: none"> ・半導体 ・自動車 	<ul style="list-style-type: none"> ・生産、検査 ・開発、評価 	
サービス事業	アフターサービスエンジニアリング	<ul style="list-style-type: none"> ・アフターサービス 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器周辺工事 	<ul style="list-style-type: none"> ・電子部品、電子機器 ・自動車 ・半導体 	—	<p>15%</p>
	受託試験レンタル	<ul style="list-style-type: none"> ・受託試験 ・リセール 	<ul style="list-style-type: none"> ・機器レンタル ・校正 		<ul style="list-style-type: none"> ・R&D ・信頼性評価 	
その他事業	環境保全	森づくり、水辺づくり、都市緑化			<p>3%</p>	
	植物育成装置	植物工場、研究用育苗装置など				

環境試験の沿革

環境試験とは

電子部品などのさまざまな工業製品について、温度、湿度、圧力、振動などの環境因子による影響を分析・評価し、製品の品質を確保するための試験

<1950年代>
日本で民生品の環境試験が
JIS規格化



<1970年代～1990年代>
「信頼性」「品質管理」が製品開発の重要な
テーマとなり、電子化・電装化の加速に伴い
需要が飛躍的に拡大



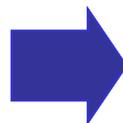
<現在>
デジタル化、脱炭素化を背景
にIoTや次世代自動車の開
発分野において需要が拡大



1961年 日本初の環境試験器を開発



低温恒温恒湿器 ルシファー



国内シェア
60%以上

世界シェア
30%以上

世界シェア No.1

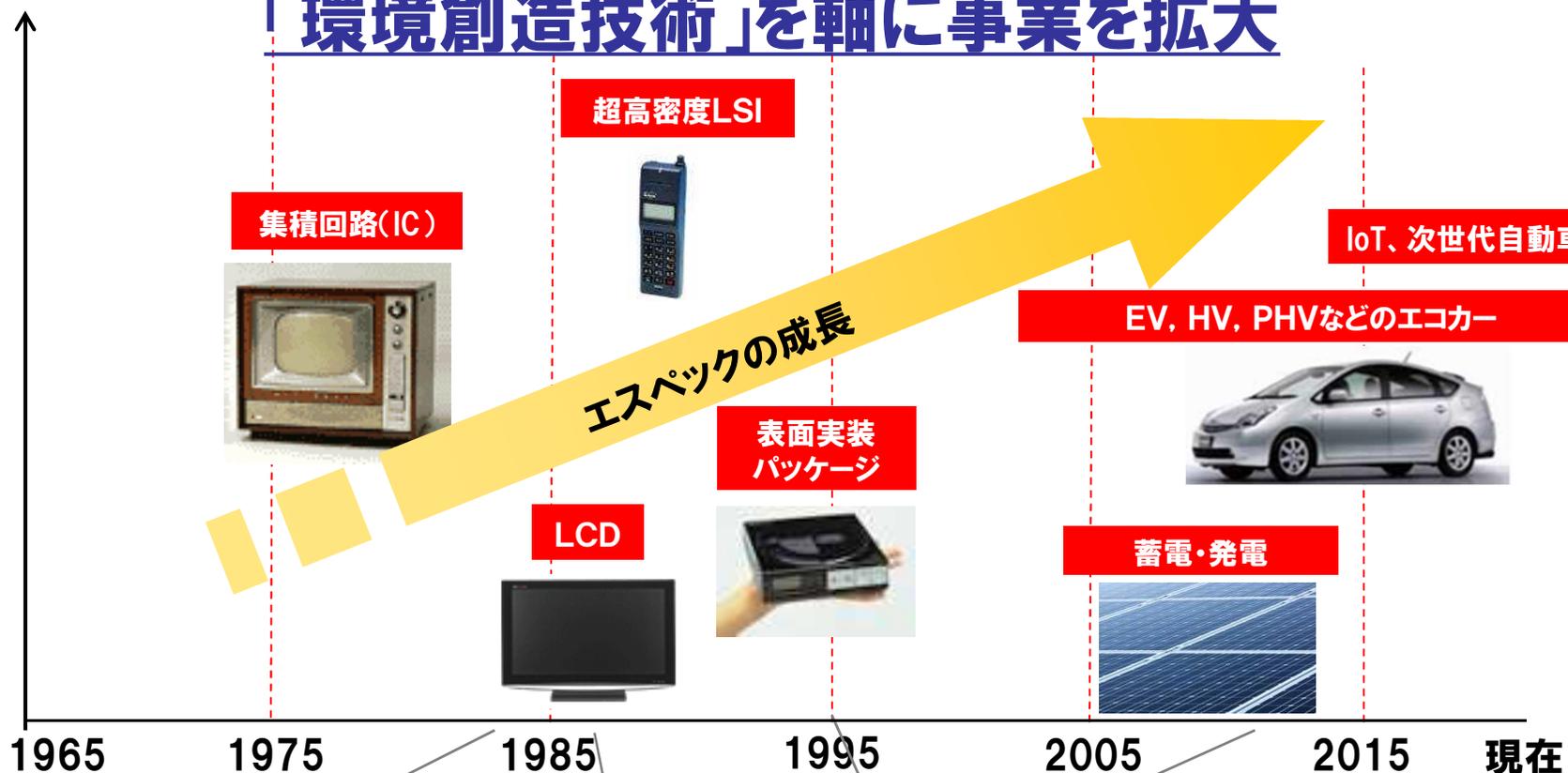
経産省「グローバルニッチトップ
企業100選」を連続受賞



恒温恒湿器 プラチナスJシリーズ

事業の変遷

環境試験器で培った 「環境創造技術」を軸に事業を拡大



事業の拡大

1982年
半導体試験装置
事業参入



1986年
FPD装置
事業参入



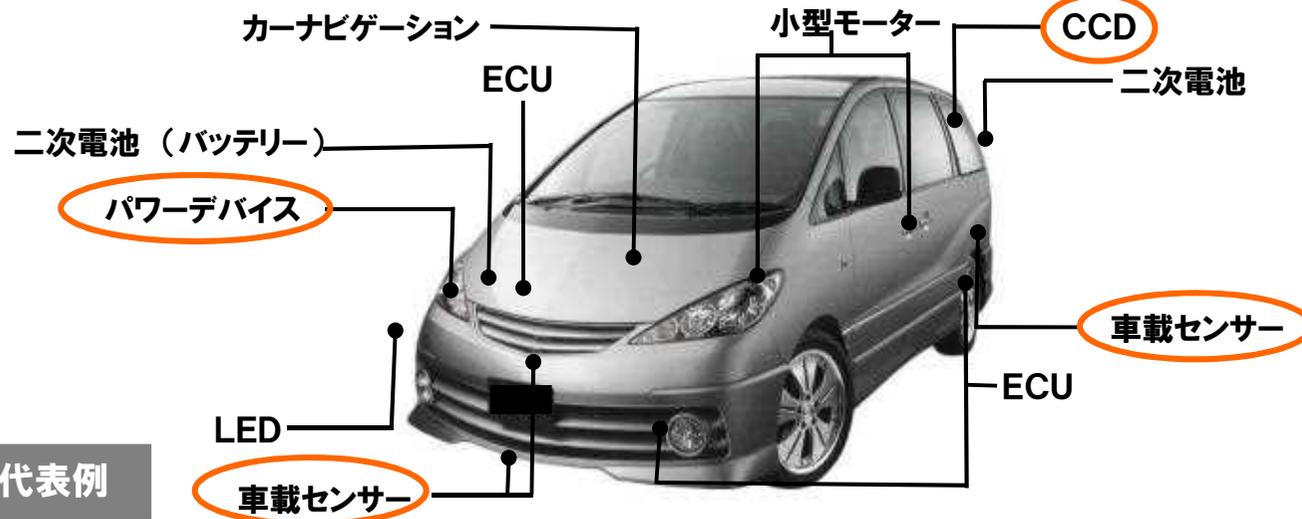
1994年
計測システム
事業参入



2011年
電池専用装置
事業参入



【装置事業】環境試験器の用途事例



環境試験の代表例

デバイス	プロセス/試験条件		当社製品
【パワーデバイス】 	検査	■冷熱衝撃試験: $-40^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +125^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置
		■高温放置: $+175^{\circ}\text{C}$ 、 $+85^{\circ}\text{C}$	(小型)オープン
		■バーンイン試験	バーンイン装置
【車載センサー】 	検査	■基板の温度サイクル試験: $-40^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +110^{\circ}\text{C}$	低温恒温器(プラチナス)/オープン
		■はんだ付け後の温度特性試験: $-30^{\circ}\text{C} \Rightarrow +85^{\circ}\text{C}$ をリニア変化	バーンイン装置・急速温度変化チャンバー
【CCD/CMOS】 	生産	■拡散試験: $+150^{\circ}\text{C}$	小型オープン
		■洗浄後の乾燥: $+85^{\circ}\text{C}$	クリーンオープン
	検査	■スクリーニング: $+85^{\circ}\text{C}$	恒温器(プラチナス)/バーンイン装置
		■温湿度試験: $+85^{\circ}\text{C} / +85\%rh$ 、 $+60^{\circ}\text{C} / 90\%rh$	恒温恒湿器(プラチナス)
		■加速試験: $+120^{\circ}\text{C} / 100\%rh$	HASTチャンバー
	■冷熱衝撃試験: $-40^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +125^{\circ}\text{C}$ 、 $-20^{\circ}\text{C} \leftrightarrow +85^{\circ}\text{C}$	冷熱衝撃装置	

【装置事業】主な新製品

発売日	製品名	特長
2022年4月	低GWP※冷媒「R-473A」搭載 ハイパワー恒温(恒湿)器ARシリーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・GWP値を大幅に削減(88%減)、運転時の省エネも実現 ※GWP:地球温暖化係数
2021年6月	超低温保冷库	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナワクチンなどのマイナス75℃小口保管用途
2021年4月	定温輸送保冷库	<ul style="list-style-type: none"> ・新型コロナワクチンなどの小口輸送・保管に最適 ・振動に強く、省電力、ポータブル
2021年2月	減圧低温加熱調理器 モデルチェンジ	<ul style="list-style-type: none"> ・温度に加え真空度の精密な制御も可能
2020年8月	ハイパワー恒温(恒湿)器 ARシリーズラインアップを拡充	<ul style="list-style-type: none"> ・新たに急速温度変化タイプとして4器種を発売 シリーズで計32器種をラインアップ
2020年3月	輸送環境試験装置	<ul style="list-style-type: none"> ・医薬品や医療機器の輸送環境を再現 ・バイオ医薬品の研究開発や医療機器の品質管理用途
2020年2月	恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー ドライブインシリーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・自動車2台が入る大空間でさまざまな気象環境を再現
2020年2月	恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー ハイパワーシリーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・国際標準IEC規格やドイツ自動車業界規格に適合

【装置事業】新製品紹介①

(2020年2月発売)

■ 恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー ハイパワーシリーズ

<特長>

- 国際標準IEC規格やドイツ自動車業界規格「LV124」に適合
(有試料3℃/分の急速温度変化試験が可能)
- 低GWP冷媒(R-449A)を標準搭載

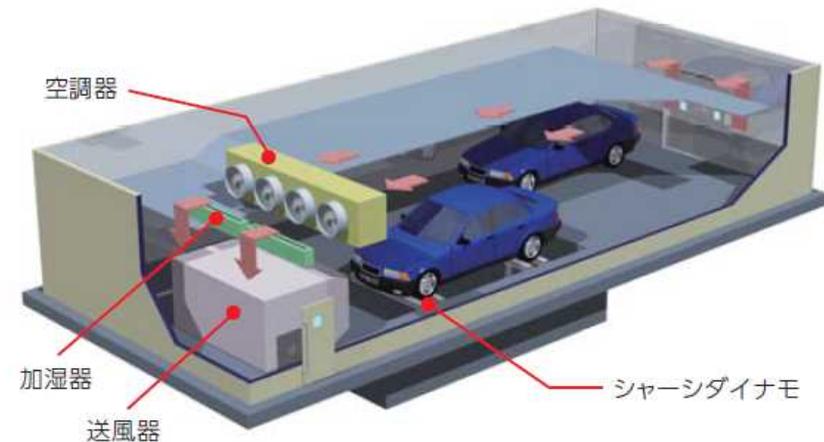


恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー
ハイパワーシリーズ

■ 恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー ドライブインシリーズ

<特長>

- 車2台が入る約500m³の大空間でさまざまな気象環境を精密に再現し、実車試験が行える
- 温湿度に加え、日射、雨、雪、霧、風などの環境因子を複合して再現可能



車2台が入る実車試験のイメージ

恒温(恒湿)室 ウォークインチャンバー
ドライブインシリーズ

【装置事業】新製品紹介②

医療分野向け

(2021年4月発売/6月発売)

■ 定温輸送保冷库/超低温保冷库

<特長>

- ・定温輸送保冷库:ワクチンの小口移送・保管に対応、振動に強く省電力、ポータブル
- ・超低温保冷库:マイナス75℃の小口保管に対応、床置型・卓上型の2種を用意



定温輸送保冷库



超低温保冷库

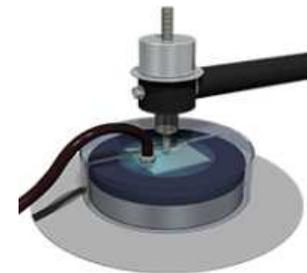
マテリアル分野向け

(2019年12月発売)

■ スポット冷却加熱装置

<特長>

- ・各種材料試験機との組み合わせで、温度を付与した実使用環境での材料試験が可能
- ・試験片を効率的に冷却・加熱する当社独自の新方式を採用



摩擦摩耗試験機・硬度計とのセットアップ例(左)
スポット冷却加熱装置(右)

【装置事業】環境試験器の納入事例①

(2018年7月納入)

■恒温(恒湿)室 建材用試験室の納入

<用途>

マンションの屋内(温湿度)と屋外(雨、雪、日射などの気象)の環境を再現し、サッシやバルコニーなどの建材の性能評価や耐久性試験を行う



恒温(恒湿)室 建材用試験室



恒温(恒湿)室は可動式になっており、試験用建材の入れ替えが容易にできます



照射装置と散水(降雨)装置を装備し、屋外の気象環境を再現します

【装置事業】環境試験器の納入事例②

(2016年3月納入)

■産総研 福島再生可能エネルギー研究所 スマートシステム研究棟(福島県郡山市)

納入製品：
大型恒温恒湿室

用途：
太陽光発電向けの
大型パワーコンディショナーの性能・安全性評価
100kwもの発熱負荷や重さ(21トン)にも対応



大型恒温恒湿室

■独立行政法人 製品評価技術基盤機構 蓄電池評価センター(大阪市南港)

納入製品：
①充放電試験用の恒温恒湿室
②外部短絡試験装置(エナジーデバイス装置)

用途：
①充電・放電を繰り返すことで蓄電池の性能を評価
②蓄電池がショートした場合に、発火や破裂しない
ことを確認し、安全性を評価



充放電試験用の恒温恒湿室

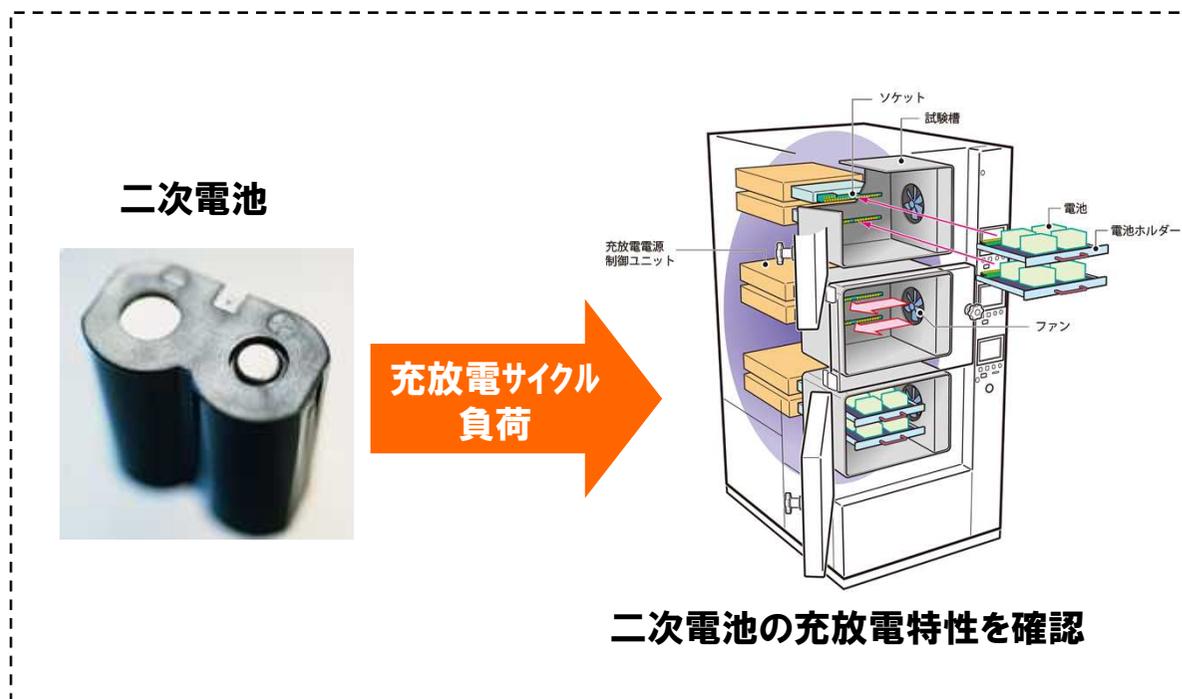
【装置事業】エネルギーデバイス装置の用途事例

充放電サイクル評価装置

ハイブリッド自動車や電気自動車など次世代自動車に用いられるリチウムイオン二次電池の信頼性や安全性を確保するための装置



充放電サイクル評価装置
アドバンスバッテリーテスター



二次電池の性能や寿命を評価

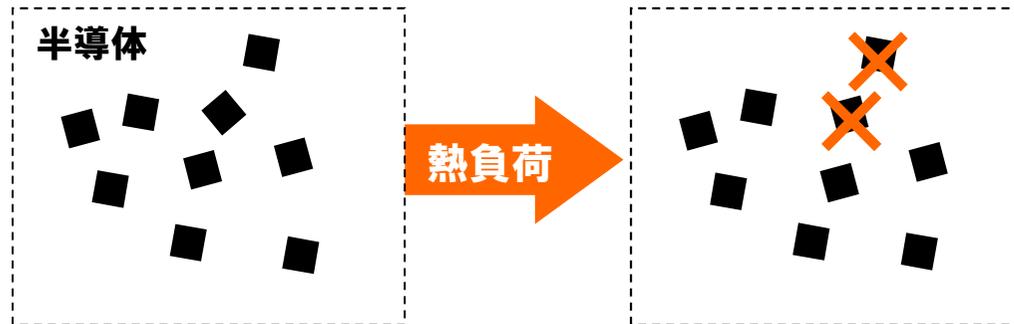
【装置事業】半導体関連装置の用途事例

スクリーニング

半導体デバイス製造の最終検査工程において、不良品を除去し初期品質を確保



バーンインチャンバー



潜在的な初期故障を除去

信頼性評価

新しい技術開発において、信頼性確保に向けた基本的な故障形態を評価



導体抵抗評価システム



熱サイクル
負荷

はんだ接合部分の不良例



電子部品のはんだ接合部分の信頼性を電氣的に評価

【サービス事業】

アフターサービス・エンジニアリング

製品の予防保全、メンテナンスサービス、製品の改善・改良、設置・移設など

- 国内No. 1のネットワークによるスピーディな対応
- 業界初 ネットワークを使った新サービス「エスペックオンラインシリーズ」を提供

受託試験・レンタル

受託試験・分析・評価、コンサルティング、製品レンタル、中古製品の販売、試験器校正など

- 国内4ヵ所、タイ1ヵ所、中国2ヵ所に受託試験所を展開
(国内:宇都宮・豊田・刈谷・神戸、タイ、中国:上海・蘇州)
- ・ 計量法校正事業者認定制度(JCSS)に基づく校正機関
- 世界初「バッテリー安全認証センター」開設(2015年9月)
- ・ 車載用二次電池の安全性に関する国連規則に適合した

試験・認証申請のワンストップサービスを提供

- ・ 第三者認証機関テュフズードジャパン(株)と業務提携(2014年10月)(宇都宮テクノコンプレックス内)

■ 国内初 ISO/IEC 17025*試験所認定を自動車・鉄道・航空機の3分野で同時取得

■ 豊田試験所では、国内初ドイツ自動車業界規格「LV124」の全試験項目に対応



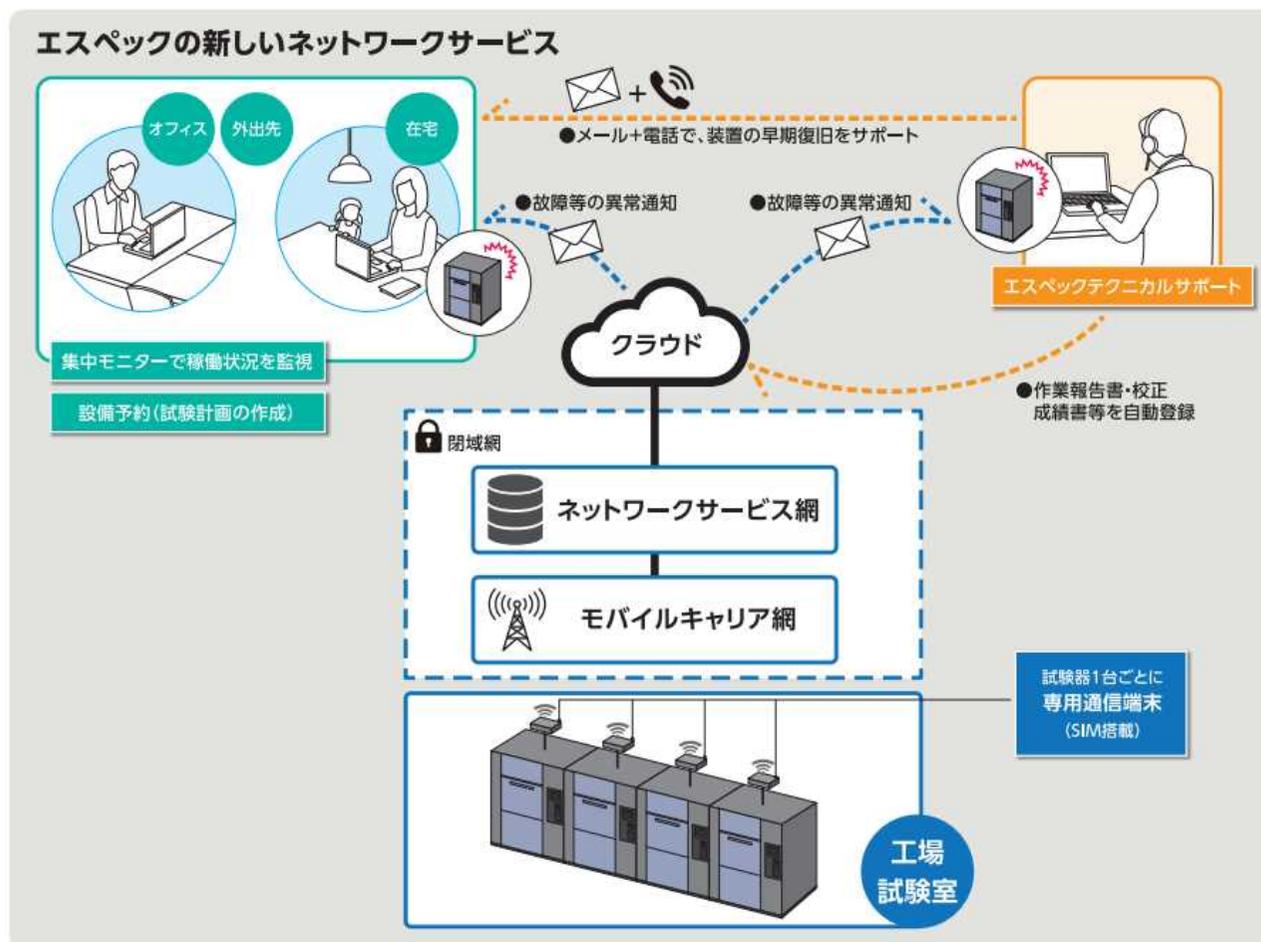
【バッテリー安全認証センター】

*ISO/IEC17025: 試験所・校正機関が正確な測定/校正結果を生み出す能力があるかどうかを権威ある第三者認定機関が認定する国際標準規格

【サービス事業】アフターサービス

(2022年4月開始)

モバイル通信・クラウド活用「ネットワークサービス」
お客様の試験・設備管理の負担軽減、装置のダウンタイムを低減



【サービス事業】アフターサービス

お客様の開発業務の継続を支援「在宅オンラインサービス」

当社製品を使用する場合

自宅から装置を操作、試料を監視

- ・集中管理(モニター・データ解析)
- ・稼働状況をメールで受け取り
- ・槽内監視カメラ(20年3月発売)で試料を監視

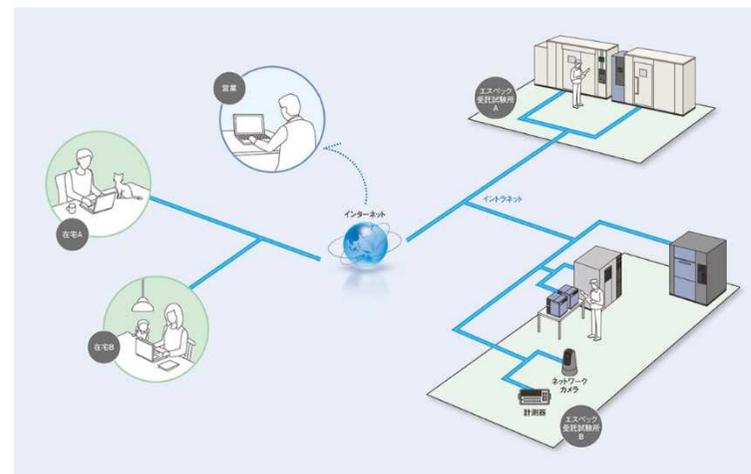


槽内監視カメライメージ

受託試験所を利用する場合

試験の開始から終了、輸送まですべて代行

- ・リモート商談
- ・立ち合いレス
- ・遠隔指示



【サービス事業】受託試験サービス

**国内初 受託試験サービス 100%グリーン電力を実現
お客様のサプライチェーンにおけるCO₂排出量削減に貢献**

再生可能エネルギーを導入し、2021年4月、国内で初めて受託試験サービスのグリーン電力100%を実現。年間CO₂排出量約4,187tの削減を見込む。

<国内の受託試験所>



神戸試験所



豊田試験所



刈谷試験所



宇都宮試験所



バッテリー安全認証センター



【サービス事業】受託試験サービス

**世界初 国連規則に対応
バッテリー安全認証センター**

国連規則ECE R100-2. Part IIで定められた
9項目の安全性試験の実施・認証機関への認
証申請をサポートするワンストップサービス

(2015年9月 宇都宮テクノコンプレックスに開設)



圧壊試験機(第1安全試験室)



第2安全試験室

**日本初 ドイツ自動車業界規格に対応
豊田試験所をリニューアル**

ドイツ自動車業界規格LV124の全試験項目に
対応し、グローバル化を進める日本の車載機器
メーカーをサポート

(2019年9月 豊田試験所をリニューアル)



豊田試験所

【その他事業】

環境保全

■ 森づくり

潜在自然植生データによる樹種選定、幼苗植栽手法を用いた郷土の森づくり

■ 水辺づくり

水生植物を活用した、自然環境復元、植生護岸の形成、水質浄化

■ 都市緑化

ヒートアイランド現象の緩和に効果的な苔による屋上・壁面緑化システム



植物育成装置

植物の育成に必要な光・温湿度・養分などを最適にコントロールして植物を育成する植物工場や研究用育苗装置



植物工場



ファイトロン

【その他事業】植物育成装置

海洋深層水を使用した高付加価値野菜を生産

羽田空港近郊に設置した植物工場において、
海洋深層水を使用したミネラル豊富な高付加価値野菜を生産・販売



植物工場と生産野菜「ミネラリーフ」

【その他事業】植物育成装置の納入事例

(2016年3月納入)

■鳥取大学乾燥地研究センター

納入製品:

乾燥地植物気候変動応答実験設備 2基
(高温、低湿、強光、強風など乾燥地の気候を再現)

用途:

乾燥地での植物の栽培実験や効率的な水利用技術の開発実験など
乾燥地問題の解決に向けた研究



乾燥地植物気候変動応答実験設備



実験の様子
(小麦の乾燥ストレスを実験)

技術開発力の強化(技術開発棟の紹介)

目的 : オープンイノベーションの促進による技術開発力の強化と
生物多様性保全の推進

コンセプト : 「オープンイノベーション」
「オープンコミュニケーション」
「自然環境との共存」

所在地 : 兵庫県神戸市北区鹿の子台
(神戸R&Dセンター内)

稼働時期 : 2020年5月 (2019年6月着工)

建設面積 : 1,580㎡

延床面積 : 4,557㎡(地上3階建)



在来種にこだわった屋上緑地



技術開発棟の外観

全天候型試験ラボの紹介(神戸R&Dセンター内)

(2021年3月)

世界初「全天候型試験ラボ」をオープン オープンイノベーションを推進し環境創造技術を強化

7つの環境因子(温度・湿度・雪・霧・雨・光・風)を高精度に制御・可変し
動的気象環境(刻々と変化する気象環境)を再現

■ 全天候型試験ラボ



試験室 幅6m×奥行9m×高さ3m
光の乱反射を抑える黒色コーティング

■ 動的気象環境における試験例



① みぞれ→雪への変化を再現する試験

水分量の異なる雪を再現でき、自然環境に近い0℃前後での降雪も可能。雪質と温度を制御し、みぞれから雪への変化を再現。着雪が課題となっている自動運転用センサーの性能を確認できる。



② 雨→霧への変化を再現する試験

霧の濃さと温湿度を制御し、雨から霧への変化も再現。霧の影響を受ける自動運転用センサーの性能を確認できる。

エスペックのSDGsとESGの取り組みについて

■ エスペックのサステナビリティについて

当社は企業理念「THE ESPEC MIND」のもと
環境創造技術をかなめとした事業で社会や環境の
課題解決に貢献し、持続的な成長を目指しています。

企業理念

創業当時から脈々と伝わるエスペックの大切な価値観 企業理念「THE ESPEC MIND」(抜粋)

起点

社会の公器として、すべてのステークホルダーとより良い価値交換を目指す

使命

環境創造技術でより確かな生環境を提供

スタイル

プログレッシブ(進取的な)、リライアブル、オープン、フェア

宣言

社会に約束すること「遵法」「文化」「人権」「環境」「啓発」

サステナビリティ方針とマテリアリティ

持続的成長に向けて、サステナビリティ方針を策定し、「社会的価値」「経済的価値」を創出していくために取り組むべきマテリアリティ(重要課題)を特定

サステナビリティ方針

- 企業理念「THE ESPEC MIND」の実践により、「社会的価値」と「経済的価値」の創出と向上を図ります
- ステークホルダーとのより良い価値交換により持続的成長を目指します
- ESPEC Vision 2025のもと、「環境創造技術」をかなめとした事業活動を通じて地球環境や社会課題の解決に貢献します
- サステナビリティに関する情報開示を積極的に行います

マテリアリティ

- ・事業構造の革新
- ・地球環境保全
- ・人材育成・職場の活性化
- ・機能強化
- ・ガバナンス強化
- ・ダイバーシティ推進・人権尊重

エスペックのSDGsへの貢献

エスペックは、先端技術分野をはじめ幅広い分野で、「環境創造技術」を核とした製品・サービスを提供し、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

エスペック

提供する価値

- ・環境創造技術を核とした製品・サービスの提供
- ・環境保全サービスの提供
- ・地球温暖化や異常気象に対応した植物工場の提供

強み

- ・社会の発展に不可欠な事業領域
- ・世界トップブランドと独自技術による質の高い製品・サービス
- ・グローバルな生産・販売ネットワーク

お客様の製品・技術



- ・自動車(EV・自動運転)
- ・電子部品(半導体)
- ・IoT
- ・AI
- ・バッテリー
- ・医薬品
- ・食品
- ・マテリアル
- ・環境保全
- ・アグリカルチャー
- など

社会

持続可能な社会の実現へ



- ・クルマの自動運転技術・予防安全技術の開発による安全・安心な社会の実現
- ・省エネ技術やEV技術の開発による環境・エネルギー問題解決への貢献
- ・IoT関連技術の開発による人手不足の解消、生産性の向上
- ・森づくりや水辺づくりなどの環境保全事業による生物多様性保全
- ・異常気象に対応した植物の作出研究支援や、植物工場による食の安定供給など

エスペックの事業とSDGs

装置事業



環境創造技術を駆使した製品・サービスの提供による先端技術の発展への貢献

・社会・環境課題の解決に向けた先端技術の開発に貢献する製品、サービスの提供

●環境試験器

温度や湿度などの環境因子を人工的に再現し、製品の信頼性を確保する環境試験器を提供

●エナジーデバイス装置

エコカーに搭載される二次電池や燃料電池の評価装置を提供

●半導体関連装置

半導体の検査用バーンイン装置や計測評価システムなどを提供

●医薬用機器

新型コロナワクチン用の保冷库や、医薬品・食品などの品質管理に使用される安定性試験装置などを提供



恒温恒湿器
プラチナスJシリーズ



自動車一台入る
実車試験装置



半導体検査用
バーンインチャンバー



二次電池評価用
アドバンスバッテリーテスター

エスペックの事業とSDGs

サービス事業



環境創造技術を駆使した製品・サービスの提供による先端技術の発展への貢献

・社会・環境課題の解決に向けた先端技術の開発に貢献する製品、サービスの提供

●アフターサービス・エンジニアリング

お客さまが安心して装置をお使いいただけるよう
製品のメンテナンスや予防保全を実施

●受託試験サービス

環境試験で培った技術と試験ノウハウで受託試験
サービスを提供



ITを活用したテクニカルサポート



国連規則など二次電池の各種安全性試験に対応
バッテリー安全認証センター

エスペックの事業とSDGs

環境保全事業



生物多様性保全への貢献

その土地の在来種による「森づくり」や自然の河川を取り戻す「水辺づくり」など自然環境を復元する事業
地球温暖化の防止や生物多様性保全に貢献



仙台市輪王寺参道の
復元された森



東京都 隅田川テラスにおける
水辺づくり

植物育成装置事業



地球温暖化や異常気象に対応した食の安定供給への貢献

植物が育つ環境を人工的に再現し、異常気象でも計画的に野菜を生産できる植物工場を提供
乾燥に強い植物の研究に使用する装置の提供など、食の安定供給に貢献



海洋深層水を利用した植物工場
ミネラル豊富な野菜を生産・販売



乾燥地植物気候変動
応答実験設備
(鳥取大学 乾燥地研究センター)

サプライチェーンにおけるSDGsへの貢献

調達

- 環境面やコンプライアンスなどを含めたサプライヤ評価の実施
- 事業継続マネジメントによる不測の事態への対応
- 調達時の排出物の抑制



開発・設計

- 省エネ、低GWP冷媒の搭載、化学物質の排出抑制、廃棄時の環境負荷低減など環境に配慮した製品の開発・設計



生産・物流

- CO₂排出量の削減
- 化学物質の適正管理・排出抑制
- 取水量の削減・排水の適正管理
- 排出物の削減・リサイクル
- 環境に配慮した物流



製品・サービスの販売

- 社会・環境課題の解決に向けた先端技術の発展に貢献する製品・サービスの提供
- 環境配慮型製品、サービスの提供
- 「森づくり」や「水辺づくり」などの環境保全事業の推進
- 植物育成装置事業の推進



廃棄

- 製品回収
- フロン回収
- リサイクル、リセール



サプライチェーンを支える基盤

- 顧客満足の向上と製品の品質・安全
- 人権の尊重
- 多様な人材の活躍推進
- 適切な情報開示・コミュニケーション
- 透明性のある公正な経営



生物多様性保全の取り組み

生物多様性保全活動の拠点 神戸R&Dセンター 六甲北部の在来種にこだわった屋上緑地を育成

社員が約3万本の在来種を植樹し育てた森や、六甲北部の在来種を用いた技術開発棟の屋上緑地、2つの池と小川からなるビオトープを設置
植樹や施工は環境保全事業を営むエスペックミックが実施



全国みどりの工場大賞
National Award for Greenery Factory

神戸R&Dセンターが全国みどりの工場大賞
2021年度「日本緑化センター会長賞」を受賞

新型コロナウイルスワクチン接種への貢献

新型コロナウイルスワクチンのコールドチェーンに貢献

- ・2021年4月、定温輸送保冷庫を発売、6月には超低温保冷庫を発売、サービスも拡充
- ・定温輸送保冷庫などを自治体に無償で貸し出し
 - 1回目 計41台(2021年4月～6月)
 - 2回目 計34台(2021年12月～2022年3月)



定温輸送保冷庫

2～8℃・-20℃の移送・保管に対応、振動に強く省電力、ポータブル



超低温保冷庫

-75℃の保管に対応、床置型・卓上型の2種を用意

ダイバーシティの推進

女性活躍推進の取り組み



厚生労働省より、
子育てサポート企業認定マーク「くるみん」、
女性活躍推進法に基づく認定マーク
「えるぼし」の最高位などを取得



女性リーダー育成研修会

障がい者就労農園 「エスペックスマイルファーム」を開設

- 2021年11月、障がい者雇用支援会社が運営する貸農園内に障がい者就労農園を開設
- 障がいのある方3名と管理業務を行う1名の計4名を採用
- 栽培した野菜は、地域の子ども食堂への寄付や社員への配布などに活用



社員一同で野菜を収穫

社員教育・寄付制度

社員教育制度の充実

- ・ 企業理念の共有を目的とした研修会の実施
- ・ 国際的に活躍できる人材育成を目的としたグローバルトレーニープログラムの実施
- ・ 経営幹部育成および自己啓発を支援する教育プログラムの拡充



グローバルトレーニープログラム
現地研修(アメリカ)

従業員参加型の寄付制度 「エスペックスマイルクラブ」

- ・ SDGs推進活動の一環として、従業員の寄付金に会社が寄付金を上乗せするマッチングギフト制度を設置(2020年12月)
- ・ 子供と医療関係の社会貢献活動を行う団体に寄付
- ・ 2022年3月、公益社団法人セーブ・ザ・チルドレン・ジャパンの「ウクライナ危機緊急子ども支援」に総額758,800 円を寄付



社会貢献活動

エスペック地球環境研究・技術基金

- ・地球環境保全に関する研究・技術開発に対して毎年資金援助を実施
- ・設立から25年
計273団体に総額1億3,840万円を助成



授与式

宮城県岩沼市「千年希望の丘」植樹祭

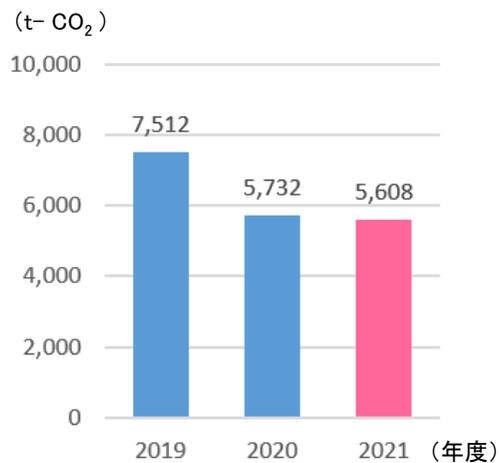
- ・2013年にスタートした震災復興プロジェクト
- ・岩沼市の沿岸部10kmにわたる植樹による「森の防潮堤」 植樹本数は累計35万本
- ・グループ会社であるエスペックミックが支援
- ・ファイナル植樹祭が2021年6月（前編）、2022年5月（後編）に開催された



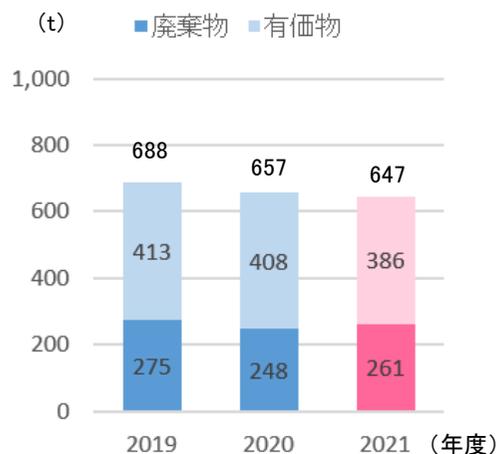
植樹祭

非財務データ（環境的側面）

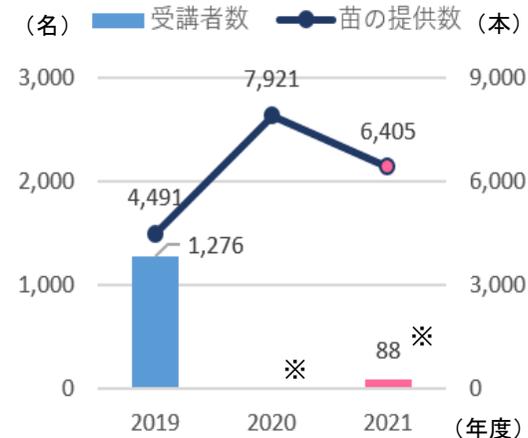
省エネ製品の販売による
CO₂排出抑制貢献量



排出物総量

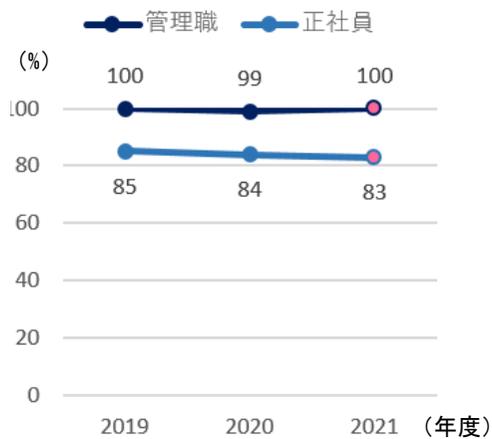


エスペックみどりの学校受講者数
グリーンカーテン用苗の提供数

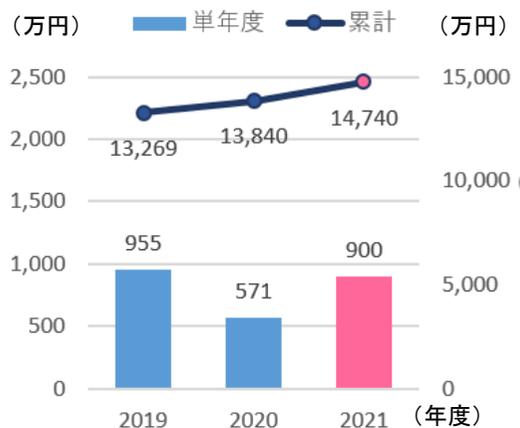


※2020、2021年度はコロナの感染拡大により開催中止、回数減少

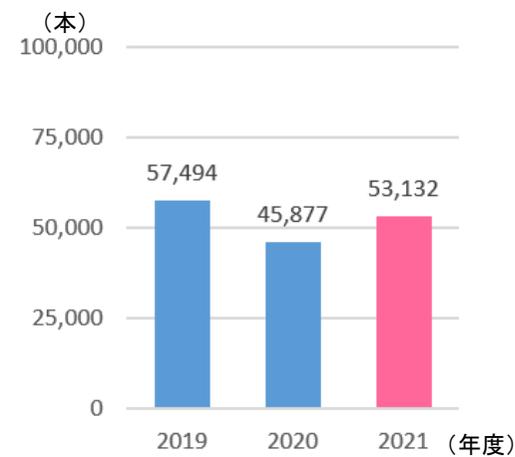
環境社会検定試験
(eco検定)資格取得率



エスペック地球環境研究・
技術基金による助成



環境保全事業による
植樹本数



※エスペックミック株式会社 実績

非財務データ（社会的側面）

2021年度実績

技術者向け情報サイト
「Test Navi」
会員登録者数

22,154名

従業員数(連結)

1,628名

海外連結会社従業員数

735名

女性役員数
(執行役員含む)

2名

女性管理職比率

6.0%

※2022年4月1日現在

定期採用での比率

女性 28.6%

外国人 14.3%

※2022年4月1日入社

育児休業取得率

女性 100%

男性 30.8%

労働災害
(不休災害を除く)

2件

健康診断受診率

100%

社外からの評価

2022年4月

- ・ESG指数「FTSE Blossom Japan Sector Relative Index」構成銘柄に初選定



FTSE Blossom
Japan Sector
Relative Index

2022年2月

- ・東洋経済新報社「2022年版CSR企業ランキング」334位

2021年12月

- ・CDP気候変動レポート2021において2年連続「Bスコア」
- ・日興アイ・アール「2021年度全上場企業ホームページ充実度ランキング」最優秀サイト
- ・ブロードバンドセキュリティ「Gomez IRサイトランキング2021」銅賞(業種別27位)



2021年11月

- ・日本経済新聞社「第5回スマートワーク経営調査」3つ星
- ・日本経済新聞社「第3回日経SDGs経営調査」3.5星



2021年10月

- ・日刊工業新聞社(経産省後援)「企業力ランキング」169位



2021年2月

- ・サステナビリティレポートが環境コミュニケーション大賞「優良賞」を受賞(環境省、地球・人間環境フォーラム主催)



2020年6月

- ・経産省「グローバルニッチトップ(GNT)企業100選」を連続受賞

Quality is more than a word

ESPEC